

2018年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	宮城県高齢者生活協同組合	代表者	丹野 幸子	法人・事業所の特徴	元お鮎屋さんを改装した室内は、壁紙の和紙がほんのりとした温かみと明るさを醸し出し、笑顔こぼれる空間を作っています。そのなかで「暮らしたい場所でのいきいきとした生活を支え、おひとりおひとりの時間を大切にしたい介護をしたい」という思いで平成29年に開所しました。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 いろり庵こぶし	管理者	小岩 眞理子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	4人	1人	1人	1人	人	2人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有のために月2回の会議や毎日の昼会、交代時の申し送りを実施する。</li> <li>・地域資源の情報を集め支援に活かす。</li> <li>・研修によるスキルアップを図る。</li> </ul>	<p>月2回のスタッフ会議、申し送りの含めた情報交換は出来た。ただ、毎日の昼会は個別の役割を優先してしまい意識付けできなかった。</p> <p>外部研修には職員自ら進んで参加できたが、内部研修の時間は十分に確保できなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短い時間で大変だったろうと思いました。</li> <li>・スタッフ全員がこの一年とても頑張っており自己評価に取り組んでいるように思えます。</li> <li>・自己評価で「あまりできていない」の項目に複数の職員の回答があります。人的体制や経験度合などの理由から、現状やもう得ないと思慮します。改善に取り組む姿勢は良く理解できます。</li> <li>・シフト調整が難しい中で工夫して意見交換や話し合いの場を作られていた。</li> <li>・少ない人員配置の状況で取り組んでいることが判ります。ゆとりある人員構成が望ましいが、経済的支援が必要であることを感じます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有と業務全体の流れを把握するため、当日早番勤務者をリーダーとし引継ぎをしていく。</li> <li>・地域資源の情報はライフサポートに記載し共有化していく。</li> <li>・内部研修の年間計画を作成し、成年後見人制度、個人情報保護、虐待、感染症、認知症、介護技術などの勉強会を実施する。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こぶしでの会議開催を計画し、利用者様や職員の様子を見ていただく。</li> <li>・行事開催については事前に地域や家族にお知らせし、参加していただけるよう働きかける。</li> </ul>	<p>会議後にこぶしで昼食会を開催し、利用者様や職員、室内の様子などを見ていただいた。</p> <p>行事開催については家族には事前にお知らせできたが、地域の方々には案内しきれないことが多かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議で出た意見やアドバイスをすぐに行動に移せていた。室内(1階リビング)はテーブルの配置などバランスが良く、キッチンカウンターや手作りの装飾品があったりと自宅のようであり、また温かみのある空間になっている。2階の個室もプライバシーに配慮された環境になっている。</li> <li>・玄関入口がもう少し目立ってもいい</li> </ul>	<p>運営推進委員の方々に利用者様や職員の様子を見ていただく機会を作る。</p>

			<p>いかなと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関の下駄箱にフタをすることで、より自宅に近い環境になり、清潔感も出ると考える。ベットの配置する場合は、ちょっとしたパーテーションを置くことでゆっくり静養できるのでは？外観は介護事業所らしくない建物になっており良いと思う。</li> </ul>	
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員はきちんと挨拶をする。</li> <li>・今後も毎月発行のチラシを町内全戸配布し事業所の活動を知らせていく。</li> <li>・町内会行事には職員の誰かが参加する。</li> <li>・「お茶っこ会」を月1回開催する。のれんの作成</li> </ul>	<p>毎月発行のこぶしだよりは町内全戸に配布しました。またブログも開始し、利用者の家族から様子がわかってうれしいとの声もいただきました。</p> <p>町内会行事では班会、高森町内会夏祭り、高森東町内会夏祭りのおみこし見学、灯籠作り、地域防災訓練に参加することができました。</p> <p>地域の方にお越しいただきたいと暖簾を作成し「お茶っこ会」を開催してきましたが、参加者はほとんどありませんでした。案内のお便り配布が遅くなったときもあったこと、ただお茶を飲みにくるのは敷居が高かったのかなと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「クローバー」はわかりやすく良いと思う。(こぶし以外の事業所もわかって) ボランティアさんや相談が増えてきているので、地域の方に知られてきていると思います。</li> <li>・地域の人にはこぶしの詳しい内容を知る方は少ないと思う。急がず一步一步知っていただくようお知らせする事が一番。</li> <li>・事業所として、地域との交流は積極的に行うよう認識し、一部連携強化に努めています。しかし、人的体制や職員の資質、経験の度合によって、結果としては差がでてるのが実情だと判断しております。解決には時間が必要と思慮します。</li> <li>・来客時の挨拶はできており、言葉使い、電話対応も気になることはない。事業所の知名度はまだ低いと思うので、どんどん地域活動に参加してほしい。</li> <li>・母は地域の行事にいろいろ連れて行ってもらっていますが、「もくれん」企画の音楽会などに行くのも、地域の情報や顔なじみになれて良いのではと思いました。</li> <li>・急速に高齢化が進むと同時に、認知症になっていく人も増える事として家族の方にこぶしを知ってもらうことで急な用事で高齢者を預かってもらうケースが増えていく</li> </ul>	<p>こぶしだより、パークタウン内事業所だより、ブログの発信の継続。参加できた町内会行事には同じく参加し、他に市民センターまつりやサロンなどできるところから参加していく。</p> <p>月1回の地域の方々に参加いただく会(お茶っこ会)は映画上映など企画を盛り込んで開催する。</p> <p>2・3月は第2火曜日 10時～12時</p>

			<p>のでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員体制によりシフト調整が難しいと思うが、もっと地域活動に参加することで事業所を知ってもらう機会が増えると考え。(できればイベントだけでなく日常的に地域と関わる機会を作ってもらいたい)</li> </ul> <p>地域のサロン活動などに職員も参加してほしい。</p> <p>広報誌なども有効活用してほしい。</p>	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に外出する機会をつくれるように十分な計画を立てて実施する。</li> <li>・地域にサポートできる資源がどれほどあるのか情報を集める。</li> </ul>	<p>花見、紅葉、バラ、彼岸花見学、高森東公園での芋煮会など季節にあわせて外出することができました。また、自分の好きなものが食べられるように外食も3回実施できみなさんに喜んでいただきました。</p> <p>地域のサポート資源についての情報収集は十分にできませんでした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節ごとの企画や地域の行事に参加させてもらっているのは連絡帳でよくわかります。</li> <li>・地域の行事やイベントで外出企画は実行できている。運営推進会議も定期的に行っており、地域住民の発言の機会も作れている。ご近所(町内)の方への気配りもできている。</li> <li>・職員が地域に出向いて利用者以外の方にもかかわるといのは、かなり人員に余裕がないと出来ないのでは。</li> <li>・日常的に外出する機会を作れていれば入居者の生活はもっと充実すると思う。運営推進会議では、利用者(家族)の発言の時間をもう少し割いた方が良いと思う。地域とのつながりを保ち続けてほしい。</li> </ul> <p>散歩コースとして高森東公園や宮城大学がお勧めです。</p>	<p>季節や外食、買物などの要望にあわせた外出を企画する。</p> <p>利用者様の地域資源と人的支援については引き続き把握に努めると同時に、情報を具体的にライフサポートに記載し共有する。</p>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議で提案された意見を活かしながら、利用者様一人ひとりを大切に支援をしていく。</li> </ul>	<p>玄関外の階段で躓きそうになったとの意見をいただき反射テープを貼り段差がわかりやすいように改善しました。</p> <p>玄関の臭いが気になるとの意見には換気と拭き掃除で対応しています。</p> <p>事故報告についても毎回みなさんより意見をいただきました。</p>	<p>特にクレームや事故、ヒヤリハットについては詳細に報告、説明できている。事例検討はもう少し増やしても良い。(利用につながるイメージがしやすいと思うので)</p> <p>意見、アドバイスは早い段階で行動に移している。</p> <p>利用者と地域住民の声をバランス良く引き出して欲しい。</p> <p>会議をきっかけにボランティアな</p>	<p>ヒヤリハットの報告を毎月のスタッフ会議で1人2枚は記入することにし事故なく安全に過ごしていただけるようにする。</p>

			どの地域の中にいるマンパワーを引き出してほしい。	
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の定期的な実施と地域の方の参加も呼びかける。</li> <li>・地域の防災訓練には職員が必ず参加する。</li> </ul>	<p>避難訓練は2回実施し、2回目は地域の防災訓練に利用者様と一緒に参加しました。2名の利用さんは小学校まで歩いて参加することが出来ました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時は利用者の対応で大変な状況と想います。むしろ地域ボランティアの方も積極的にお世話することで共に助け合えるのではと思う。</li> <li>・何かの時、頼りになるのは隣近所。お隣さんお向かいさんを交えた訓練ができれば良いと思います。</li> <li>・災害においては地域の町内会がしっかりした計画がたてられているので各町内会とは密にかかわってほしい。</li> <li>・災害時、こぶしが避難所になり避難者を受け入れる側になるときの手順なりをまとめておくのがいいのではないか。</li> <li>・地域の防災訓練参加時はこぶし職員とわかるような工夫(名札をつける、揃いのジャンパーを羽織るなど)をしたほうがいい。</li> <li>・避難訓練時は早めに連絡いただき、現地を見ながら訓練状況を見せていただきたい。</li> </ul>	<p>運営推進委員の方に避難訓練に参加いただく。 地域の防災訓練には利用者さんと職員一緒に参加する。</p>

